

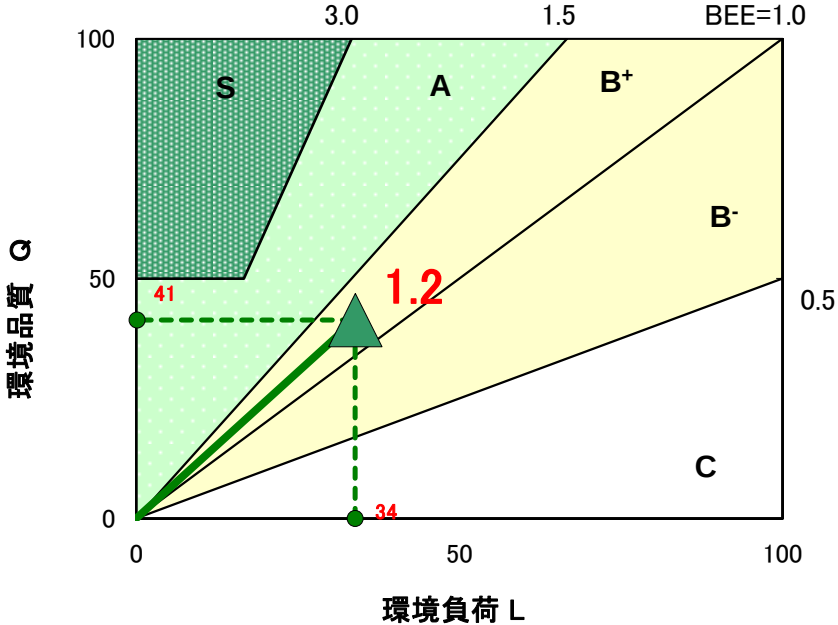
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本新市街地ホテルプロジェクト	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区新市街7番2	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集会所、ホテル、	評価の段階		
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,363 m ²	作成者		
建築面積	1,215 m ²	確認日	大和ハウス工業福岡支社流通一級建築士事務所 古川 照 ください。	
延床面積	7,844 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



■ ライフサイクルCO₂排出性能 (排出率)

排出率

73%

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

80

重点事項	評価点	熊本県重点評価基準
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	89.1	判定値(評価点) ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	58.7	100点以上 
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5	80点以上100点未満 
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.7	60点以上80点未満 
		40点以上60点未満 
		40点未満 

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

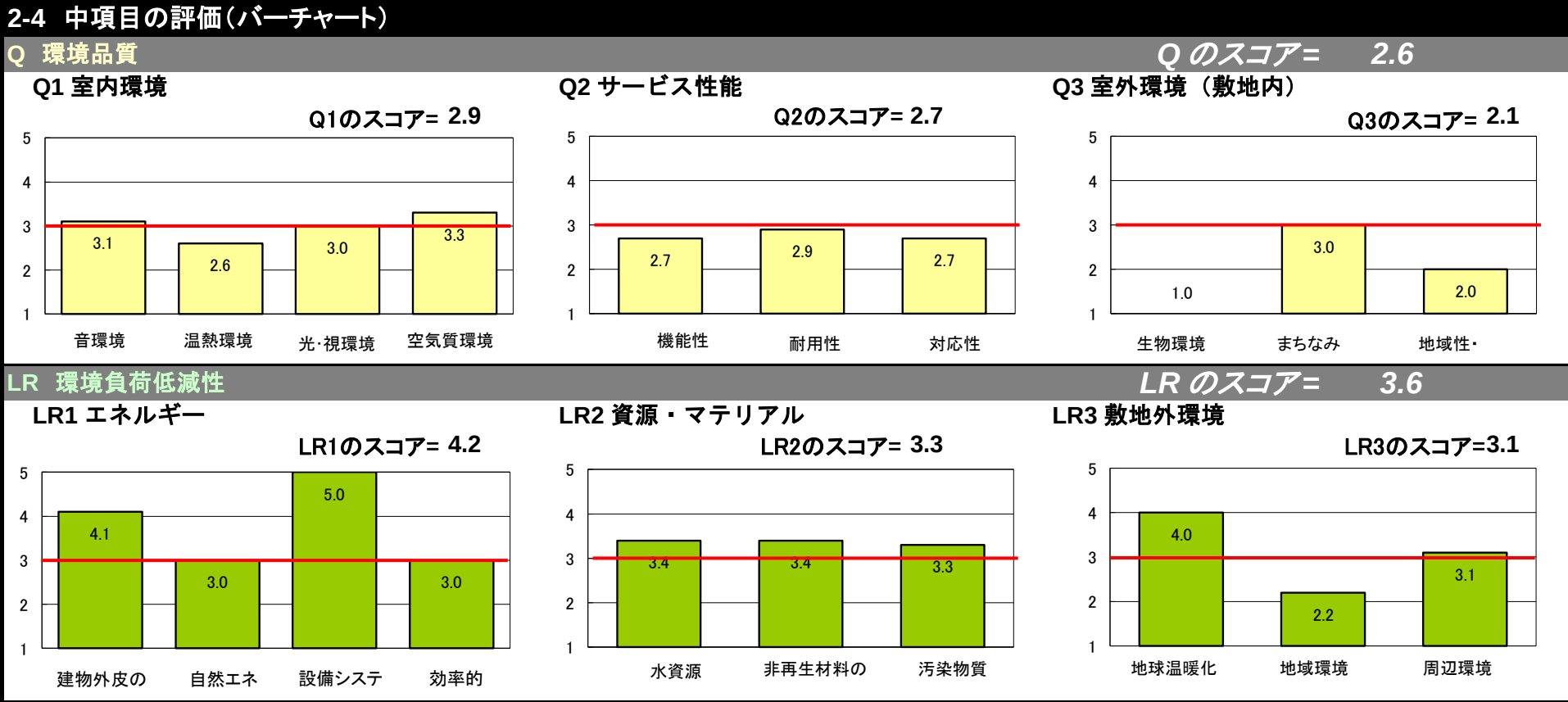
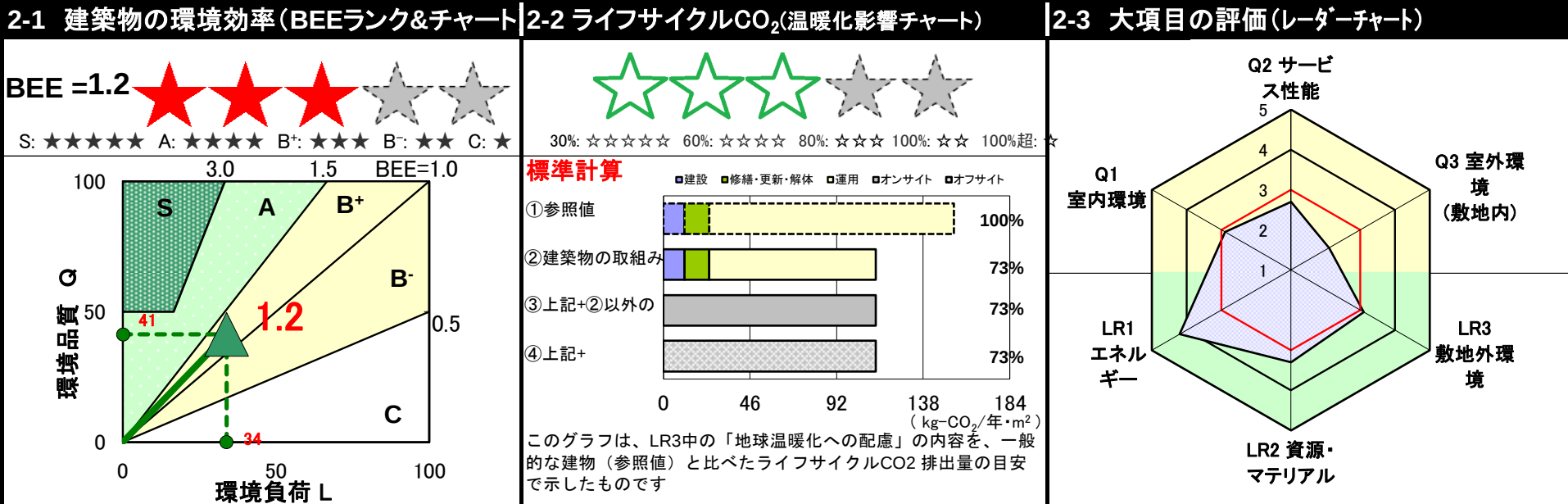
Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本新市街地ホテルプロジェクト	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区新市街7番2	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集会所,ホテル,	評価の段階		
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,363 m ²	作成者		
建築面積	1,215 m ²	確認日		
延床面積	7,844 m ²	確認者	古川 照	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本新市街地ホテルプロジェクト新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境						0.40		-	2.9
1 音環境					3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音					3.0	0.40	3.6	0.40	
1		開口部遮音性能	客室内部建具はT2以上		3.0	1.00	5.0	0.30	
2		界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境					2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御					3.0	0.50	3.0	0.50	
1		室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2		外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43	
3		ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境					3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用					3.0	0.30	3.0	0.30	
1		昼光率			3.0	0.60	3.0	0.60	
2		方位別開口			-	-	3.0	-	
3		昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					3.0	0.24	3.0	0.30	
1		昼光制御			3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.16	3.0	0.15	
3.4 照明制御					3.0	0.30	3.0	0.25	
4 空気質環境					3.5	0.25	3.2	1.00	3.3
4.1 発生源対策					4.0	0.50	3.0	0.63	
1		化学汚染物質	規制対象外を使用		4.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気					3.0	0.30	3.6	0.38	
1		換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2		自然換気性能	1/15以上の開口		-	-	5.0	0.33	
3		取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-	
1		CO ₂ の監視			3.0	0.09	-	-	
2		喫煙の制御			3.0	0.91	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.7
1 機能性					3.0	0.40	2.4	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	2.0	0.60	
1		広さ・収納性			-	-	1.0	0.50	
2		高度情報通信設備対応			3.0	-	3.0	0.50	
3		バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.0	0.40	
1		広さ感・景観			3.0	-	3.0	0.50	
2		リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3		内装計画			3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2		維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2		免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
6		主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	
1		空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2		給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	
3		電気設備			3.0	0.20	-	-	
4		機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5		通信・情報設備			2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり				-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり			-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.89	4.1	0.20	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]= 0.68	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水便器、節水こま採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			内装材天井、床材の2品目	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			断熱材吹付け硬質ウレタン使用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=1の断熱材使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒			2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			換算スコア=4.0	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				2.2	0.33	-	-	2.2
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	
3	交通負荷抑制			1.0	0.50	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン」を過半を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

町並みの景観を考慮し、建物を可能な限り整形とし、周囲に調和した建物構成を目指した。

Q1 室内環境

ホテルの客室内は複層ガラスとし、熱負荷を抑え、内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。また開口部、界壁の遮音性能を高めることで、居住環境にも配慮した。

Q2 サービス性能

バリアフリーな建物とした。

また、外部に露出する鉄骨部には溶融亜鉛メッキとし、防錆対策を行った

Q3 室外環境（敷地内）

境界部には連続した塀等を作らずに見通しの良いフェンスをを設けることで
防犯性・防災性に配慮した。

LR1 エネルギー

建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化により省エネ性能を上げた。

LR2 資源・マテリアル

省水型機器を設置することで、節水への取り組みを行った。

LR3 敷地外環境

省エネによるライフサイクルCO2排出率の低減。

屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本新市街地ホテルプロジェクト新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				89.1	0.40	35.64
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.1	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	1.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数